絞出す半島の底力―一大皇民運動展開[[1]](#footnote-1)

力増強への重責を擔つて今や皇國半はその底力をしぼりにしぼらねばならぬ時[、]京城鍾路内では下一般特に青年に[、]を抜きにし『我等何を爲すべき』を明し延いてはにその動を及せしめやうと

國民總力聯盟事務局總長 韓相龍、陸軍志願兵講演會長 尹致昊、鮮□頭取 林緊藏、朝鮮重要物資營團理事長 渡邊豊日子、京城府鍾路署長 伊坂和夫、同鍾路區長 黑木□□□の氏を顧問に、朴興植、香山光郎、□川寛三氏を初め半島思想界の重鎭呂運亨ほか七十餘名の内鮮人中核體が打つて一丸となりこゝに時局打開の強力なる推進□□を結成、全鮮に[向]けて一大皇民運動を展開することになつた。

先にへとぐ學をり出した、時特別兵路會をして大の成を収めた路の指者たちは、やれば必ず出來る、机上の設計だけでは何にもならぬ、今こそは束を固くして動もすれば遅れがちな半を指しなる時局のに對應して応の力ある推關をしなければならぬと[以前]より中であつたが、廿六日前十時、路に下内の力者實家、、家、著作家にては半施政にをつた元等六十名の參集をめし廿八日實行員會（三十名）を開き方を決定することゝし、後二時会した。廿八日の實行員會の後[、]近日中に會を開き

一、官民との完全結束　二、半島人の敵愾心昂揚　町單位の座談會等一般民衆のなすべき具體的實踐方策に主點を置き、管内青□生、青年隊員、警防團員等二萬餘名の總蹶起大會を催すことになつた。

同會の問及び員は左のし

顧問　　　　尹致昊、韓相龍、伊坂和夫、林□□、渡邊豊日子、黑木□□□

實行委員　　朴興植、香山光郎、海東□□、高元勲、權寧萬、安田永馥、金晟□、福澤玲子、吉村□明、松村紘一、夏山茂、大山光□、芝村定幸、李世模、崔永□、井原貞圭、井垣圭□、姜柄□、□川寛、玉山友彦、金信錫、新本一浩、梁川□昶、石川□造、竹田起、宮村淑鍾、太宰明、梧村升雨、金原邦祐、金益均、徳山白□

一般委員　　呂運亨、永河在徳、李□□、金□□、宋鎭禹、青山□鍾、山本文華、高永洵、金性來、松川明宰、兪億兼、豊村裕、元村□、大倉薰、本□秀道、閔圭植、□内興洙、金用淳、上田□浩、辛島純、和田新平、徐椿、韓學洙、金□俊、金容鎭、三輪和三郎、□本修、山口重政、江藤六郎、岩村俊雄、堀内明、萩野順導、金俊□、□平□、許允、鶴川浣、菊山時□、梁原柱三、中本弘鍾

1. 1944年2月27日付『京城日報』 [↑](#footnote-ref-1)